

## 地域人材教育開発機構の目的と取組

三重大学地域人材教育開発機構は、各部局との連携・協議を通して、三重大学の教育目標の達成に向けた教育諸活動の創造・開発を推進するとともに、地方創生に資する地域人材育成の学位プログラム・教育の質保証に向けた取組を支援することを目的としています。この目的の達成のため、既存の組織を再編し、教育改革をより推進できる体制として設置されました。現在、教育の質向上に向けて、全学FDシンポジウム/セミナー及びFD情報交換会の開催、Moodle、eポートフォリオの利活用の推進、学修成果に係るアンケート調査の実施・分析等を行っています。

さらに、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+:Center of Community)として、「地域イノベーションを推進する三重創生ファンタジスタの養成」に取り組んでいます。ファンタジスタ(柔軟で豊かな創造力に富んだ発想と行動のできる人材)を育成すべく、「地域志向科目群」「地域実践交流科目群」「地域イノベーション科目群」の3つのステージで構成する「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースを全学部・全学科で展開しています。この副専攻コースを通して、三重県の現状を熟知し、三重県の地域や産業の課題の発見と解決方法を地域や現場の人たちと多面的なコミュニケーションを図りながら、産・官・学・民が一体となったオール三重体制を構築し、今後の三重県を展望しつつ、三重県の新時代を切り開くことのできる人材の育成を目指しています。

## 各部門の取組内容

### アクティブラーニング・教育開発部門

- ◆ ディプロマ・ポリシーの再考、カリキュラムの開発及びその支援
- ◆ 各学部等におけるアクティブラーニングの開発及び支援 他

### 教学IR・教育評価開発部門

- ◆ 教学IRデータの収集・分析
- ◆ ルーブリックの作成、教育評価方法の開発及びその支援 他

### eラーニング・教材開発部門

- ◆ eラーニング環境の整備及びeラーニング教材の開発
- ◆ 各学部等のeラーニング教育の支援 他

### 大学図書館・学習支援部門

- ◆ 附属図書館や環境・情報科学館の学習支援環境の整備・支援
- ◆ 情報リテラシー教育の開発・支援 他

### グローバル人材教育開発部門

- ◆ 全学部の留学生を対象とした日本語教育
- ◆ 地域で活躍するグローバル人材を育成する教育の開発支援
- ◆ 国際通用性の強化に向けた専門英語教育の支援 他

### 地域創発部門(地域創発センター)

※COC+の推進

- ◆ 本学における地域人材育成教育の推進
- ◆ 若者を地域に止め置くための産官学民連携による取組み 他

## アクティブラーニングの効果と反転授業の可能性 (2/13)

2月13日(月)、メディアホールにおいて、全学FD「アクティブラーニングの効果と反転授業の可能性」を開催しました。当日は学内外から49名の参加がありました。

地域人材教育開発機構山本裕子講師による司会の下で、同機構アクティブラーニング・教育開発部門長の荻田修一教授から開会挨拶と趣旨説明が行われました。森朋子教授(関西大学教育推進部)のご講演においては、まず、「教える」から「学ぶ」への教授学習のパラダイム転換や社会人基礎力、学士力などの新しい能力の育成、その背景となる教育政策などのアクティブラーニングの現状が示されました。森先生は、アクティブラーニングが推進されるなか、学生の思考は本当にアクティブになっているのかという問題提起とともに、手法だけでなく内容の伴った「ディープ・アクティブラーニング」の重要性を強調されました。



講師の森朋子先生(関西大学教育推進部)

反転授業については、知識の定着に主眼を置く「習得型」と、問題解決型・知識の活用に主眼を置く「探求型」の二つの類型があり、より多くの教員が導入しやすいのは「習得型」であることが説明されました。また、反転授業を導入する上で参考となる動画の作成方法についても具体的な紹介がなされました。



会場の様子

質疑応答/ディスカッションにおいては、参加者から寄せられた質問カードにご回答頂きました。例えば、反転授業における事前学習は動画の視聴に限定されるのかという問いに対して、学士課程の基礎は動画を用い、徐々にリーディング・アサインメントを加えていくとよいのではないかという助言を頂きました。

最後に、杉崎鉦司副機構長から閉会挨拶が行われ、教養教育から専門教育を通した全学的なアクティブラーニングの普及を目指す上で非常に有意義な講演会となりました。

## 高大接続とパフォーマンス評価の在り方 (3/10)

3月10日(金)、環境・情報科学館PBL演習室において、全学FDセミナー「高大接続とパフォーマンス評価の在り方」を開催しました。当日は学内外から42名の参加がありました。

地域人材教育開発機構山本裕子講師による司会の下で、山本俊彦理事(地域人材教育開発機構長)から開会挨拶が行われました。西岡加名恵准教授(京都大学大学院教育学研究科)のご講演においては、まず、高大接続改革の背景として、大学全入時代やOECDのキー・コンピテンシーなどの「資質・能力」重視の方針が示され、今後の高大接続システム改革および2017年改訂学習指導要領の方向性として、学生が何ができるようになったかという「資質・能力」重視の方針に伴い学習評価が課題となることが説明されました。

西岡先生は、パフォーマンス評価が「知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを求めるような評価方法」であると述べ、具体的な方法としては、ポートフォリオやルーブリックを挙げられました。学生に課すパフォーマンス課題づくりの手順については、深い概念理解をもたらす「本質的な問い」を明確にすることの重要性を示されました。



講師の西岡加名恵先生(京都大学大学院教育学研究科)

最後に京都大学で学部ごとに実施されている特色入試について紹介がありました。教育学部の特色入試において、第1次選抜の審査の一つとして学生が作成する「学びの報告書」は、大学生活の目標、どのように学びたいか等を具体的に記述させる内容となっておりパフォーマンス評価を重視していることがうかがえました。

質疑応答においては、地域人材教育開発機構教学IR・教育評価開発部門長の中西良文准教授が指定討論者を務めました。中西先生は、本学で実施されている、修学達成度調査(「4つの力に関するアンケート」)、学びの振り返りシート(「授業改善のためのアンケート」)、教育満足度調査(「三重大学(三重大学大学院)に対する意識アンケート」)を紹介しながら4つの論点を提起しました。例えば、調査・評価の運用においては調査項目にあがった全ての内容ができることが求められることになってしまうが、現実的には不可能ではないかという論点に対して、西岡先生は全てのものを評価対象としない姿勢が重要であると述べられました。

閉会挨拶は富樫健二副機構長から行われ、パフォーマンス評価の全学的な導入に向けて、その意義や方法を理解する上で有益なセミナーとなりました。

## FD情報交換会を開催しました

3月14日(火)に、第2回FD情報交換会を開催しました(参加者11名)。各部局における平成28年度のFD活動状況や今後の取組等について、各部局のFD委員と地域人材教育開発機構員との間で共有・議論されました。

まず、2月、3月に開催された全学FDについて、参加者アンケート結果を紹介し、内容を共有しました。次に、平成28年度のFD活動状況について、各部局の参加者が報告を行いました。例えば、教育学部では、授業公開・授業見学やクリッカーを使った授業の検討会の開催等の取組について報告がなされました。参加者からはクリッカーの使用法や導入の際の費用について質問が出され、各部局間で教育手法を学び合う貴重な機会となりました。



FD情報交換会の様子

本会は、各部局のFD活動状況を共有し、それぞれの部局の課題について議論を行うことで、全学的な課題を見出すことを目的の一つとしています。

次年度も定期的な開催を予定していますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 全学FD開催のご案内

### TA研修会

◆2017年4月7日(月)15:00-16:30

「TAの役割と心構え  
—学修支援と指導のスキルアップ—」

場所:環境・情報科学館3F PBL演習室

対象:2017年度TA採用予定者

※初めてTAを担当する大学院生向け

TAを目指す学部生(SA等)も参加可

内容:■TAの仕事とは?

■ケースに基づくディスカッション

■様々な立場での関与のポイント

担当:久保田祐歌、山本裕子、守山紗弥加

申込み期日:4月4日(火)



### 新任教員向けWS

◆2017年4月10日(月)13:00-15:10

「授業デザインとアクティブラーニング」

場所:環境・情報科学館3F PBL演習室

対象:本学教職員(非常勤を含む)

※その他の方の参加も歓迎します。

内容:

【1部:講義+実践】13:00~14:00(60分)

・学生の主体的参加を促す

授業デザイン・教育方法の基礎

・グループワーク手法

【2部:実践】14:10~15:10(60分)

・ジグソー法を体験的に学ぶ

担当:山本裕子、久保田祐歌、守山紗弥加

申込み期日:4月6日(木)



【お申し込み】各研修会の申込み期日までに、  
①お名前、②ご所属(※新任教員向け研修会希望者は  
③授業経験年数を含む)を明記の上、地域人材教育開発  
機構([hcdc@ab.mie-u.ac.jp](mailto:hcdc@ab.mie-u.ac.jp))へメールでお申し込み下さい。

## 刊行物のご案内

### ◆論文誌『三重大学高等教育研究』第23号

『三重大学高等教育研究』第23号を発行しました。「三重大学地域人材教育開発機構」の発足に伴い、1993年より出版されてきた『大学教育研究—三重大学授業研究交流誌—』を受け継ぎ、査読誌として生まれ変わりました。

本誌は創刊以来の大学教育における教育方法・教育内容に関する原著論文及び教育実践記録などの資料論文の発表という目的を継承し、さらに大学教育を基点とした社会貢献、地方創生、大学発ベンチャーなどの教育研究のイノベーションなど、多様な高等教育に関する教育実践論文を広く学内外に募っています。第23号では原著論文が11本、ショートレターが5本掲載されています。



### ◆「ディープ・アクティブラーニングの理論と方法」 『三重大学高等教育研究』別冊増刊号

高等教育創造開発センター主催2015年度全学FD(2016/3/24)「ディープ・アクティブラーニングの理論と方法:Teaching からLearningへのパラダイムシフト」の内容をまとめた冊子を発行しました。

本FDでは、松下佳代先生(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)が講演をされました。加えて、本学での取組として、アクティブラーニングに関するアンケート結果、各学部におけるアクティブラーニングの実践事例が報告されました。

本冊子では、松下先生のご講演および本学の取組報告の記録を配布資料とともに掲載しています。アクティブラーニングをより深く理解し、実践を進めていく際の資料としてご活用ください。



## 長期に渡り支えてくださりありがとうございました！



eラーニング・教材開発部門長  
下村 勉 教授

HEDC設立時から兼任として関わり、伝説の榊原合宿、PBL、Moodle、eポートフォリオなど多くの経験・勉強をさせていただきました。中川先生と一緒に三重大学アカデミックフェアの立ち上げ、企画運営に7年ほど携わったのもよい思い出です。私が担当したポスターセッションも、すっかり定着し広がっているのはうれしいことです。アカデミックフェアが、地域人材教育開発機構の各部門の活動成果の交流の場としても位置付き、その成果が地域にも広がっていくことを期待しています。



杉崎 鉦司 副機構長

2017年3月31日をもって三重大学を退職させて頂き、2017年4月1日より関西学院大学に勤務させて頂くことになりました。2008年(だったと思います)からHEDCを兼務させて頂き、現在の地域人材教育開発機構まで継続的に業務に携わらせて頂きました。10年近く、長である教育担当理事のお仕事を近くで見せて頂き、大変な業務に熱心に取り組まれている様子に常に励まされてきました。HEDCおよび機構にて、教育に対する熱意を持った多くの先生方・職員の方々と知り合うことができ、とても貴重な経験をさせて頂きました。本当にありがとうございました。



eラーニング・教材開発部門  
奥村 晴彦 教授

HEDCの立ち上げからずっとお世話になりましたが、この3月で定年退職します(まだ特任で居残ります)。構築とサポートにずっとかかわってきた三重大学Moodleも、10歳を迎え、もう私の手を離れます。感慨深いというよりは、課題山積のままで申し訳ない限りです。どうか後のことをよろしく願いいたします。

※HEDCは高等教育創造開発センターの英文名の略称です。



横矢 祥代 教務補佐員

HEDCが創設されてから約10年、たくさんの先生・職員の方には大変お世話になりました。私は三重大学の卒業生ということから他の職場では許されないだろう振る舞いが多く、周囲のみなさまには数々の暴言・失言等につきあっていただき、本当に感謝しております。ただ、私が私らしく振る舞えるとてもステキな職場環境だったなと思います。そのようなのびのびとした環境の中、多くのことを経験・学習させていただいたことで、自分のスキルを試してみたいという気持ちが膨らんできました。今回、新たなチャレンジへの第一歩を踏み出すことにしましたが、三重大学は大好きな場所であることに変わりはありません。また遊びに来ますので、そのときは私の暴言・失言に苦笑しながらもおつきあいください。

## 編集後記

本号は、地域人材教育開発機構主催の全学FDシンポジウム/セミナー、FD情報交換会の開催報告を中心に構成しています。開催予定の研修会のお知らせ・刊行物のご案内も掲載していますので、ぜひご参照ください。

寄稿くださった3月末でご退職の皆様には心より御礼申し上げます。今後の三重大学のためにも、引き続きのお力添えをよろしくお願いいたします。(久保田祐歌)

## NEWS LETTER vol.48 2017年3月31日発行

国立大学法人三重大学 地域人材教育開発機構  
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577  
TEL:059-231-5615 FAX:059-231-2354  
E-MAIL:center@hedc.mie-u.ac.jp  
<http://www.hedc.mie-u.ac.jp/>